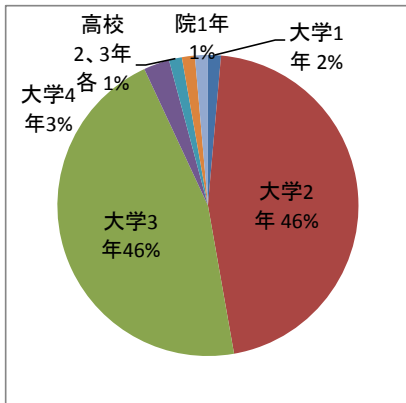
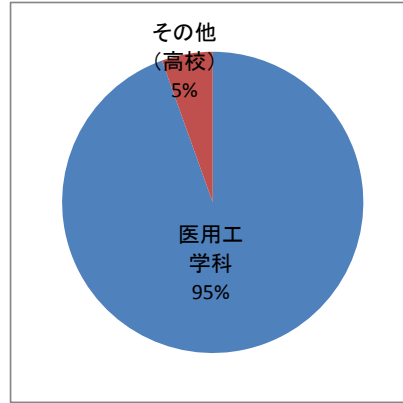


第8回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計

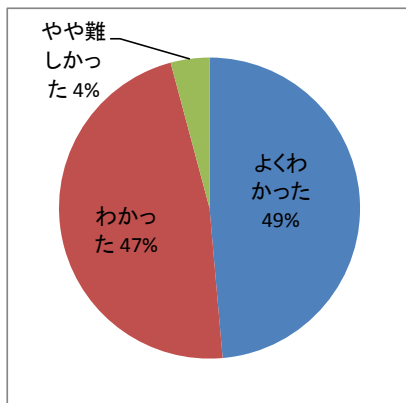
設問①学年は？



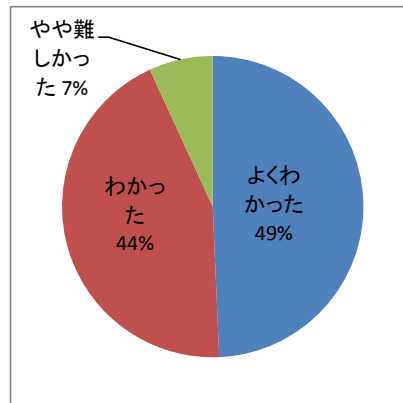
設問②所属は？



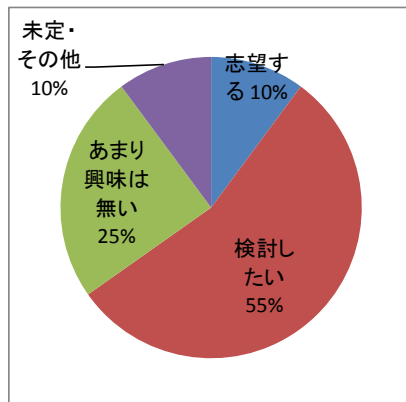
設問③日臨工 杉浦氏の講演について



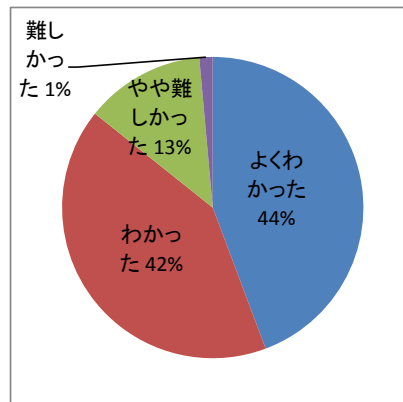
設問④テルモ 山本氏の講演について



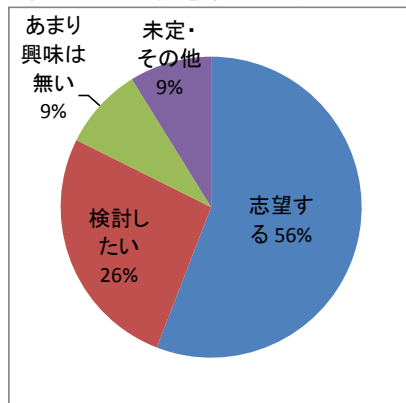
設問⑤【医用工学科学生のみ回答】
就職先として企業を希望しますか？



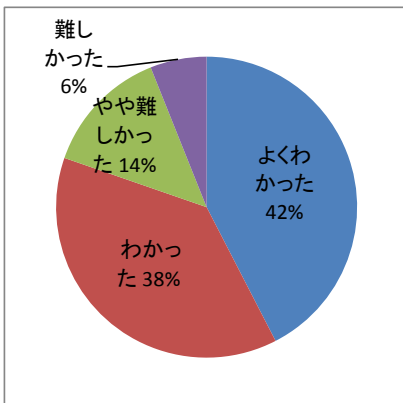
設問⑥国循 西岡氏の講演について



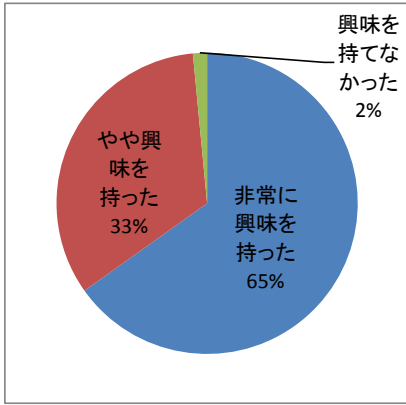
設問⑦【医用工学科学生のみ回答】
就職先として病院を希望しますか？



設問⑧国循福嶋先生の特別講演について



設問⑨臨床工学への興味



第8回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計

設問⑩	
臨床工学技士の業務について、この講演会で初めて知ったことは何ですか？	
高校 2年生	業務内容が病院内にとどまらないこと。
高校 3年生	ネット上の情報しか知らなかったもので、初めて知ったことだらけでした。特に、人工移植のことを詳しく知りとても興味を持ったので、将来の参考にしたいと思います。
大学 1年生	補助人工心臓についての業務で、一人の患者さんの入院から退院までを見届けることができること。臨床工学技士として、企業や病院で働くためにはコミュニケーションが大切だということ。
大学 2年生	人工心臓を移植された患者は、それを扱うためのテストを受ける。 機械を相手にするだけではなく、患者さんとコミュニケーションをとりながらトレーニングする業務もあるのだということ。 人工心肺をどのように扱っているのか、授業ではあまり聞いていなかったので参考になった。 臨床工学技士の業務は機械と接するのが大半だと思っていたが、今回の講演会で、患者や手術とも接することが多い業務であると痛感しました。 臨床工学技士の業務内に移植部門が含まれていることを初めて知った。これからの医療にとっても大切な業務だと思う。 補助装置が考えていたよりも進歩していたことです。数十年の間に形・大きさ・重さなどが大きく発展していることを知りました。 臨床工学技士は医療機器について熟知しなければいけない訳ではなく、現場にでると分野ごとに分かれているということ、また、横のつながりが大切だということを知りました。 脳死と心肺停止の関係について思い込んでいた考えが変わりました。移植についても知らないことが多く、新しく知ることが多かったです。 医療に携わる医師や看護師に対して機器の説明等を行うことは知っていたが、患者やその家族に対して説明や試験を行うことは初めて知った。 臨床工学技士は機械操作のイメージでしたが、コミュニケーション能力も必要なことが分かりました。 臨床工学技士になってからも勉強が必要だということは知っていたが、それが勉強できる場所があるということ。また、移植については、言葉の意味しか知らなかったのでより深く知ることができた。 透析や人工心臓を操作・管理する以外にも様々な業務があり、また、患者さんとのコミュニケーションも必要なんだなと感じました。 思いのほか短期間で技術(治療機器など)が進歩していたこと。 死を定めた法律がないこと。 日本臨床工学技士について。補助人工心臓をつけてからの流れ。 ・認定士制度があること。また、試験があること。 ・レシピエント側に臨床工学技士はいない(?) 医療事故に備えた保険があること。昔の人工心肺があればほど大きなものであったこと。 保険制度。移植医療での臨床工学技士の役割(患者・介助者教育など) 年収1000万以上の人が1%だということ。 補助人工心肺をつけてからの活動が非常に活発なんだということを知った。 臨床工学技士の保険があるということ。 人工心臓関係の業務
大学 3年生	移植は今まで医者や看護師の業務だというイメージが強かったのですが、今回の講演で、人工心臓が臨床工学技士にとって身近なものであることを知った。 臨床工学技士が関われる移植業務の種類の多さに魅力を感じた。 技士会は臨床工学技士を広めるだけでなく、医療事故に対する技士への補償も行っていること。また、臓器移植と臨床工学技士との関わり。 補助人工心臓業務の構造・役割・問題点など分かりやすく説明して頂き、就職先としてより病院に興味を湧きました。 治療を行って訴えられることがよくあることを初めて知った。また、日本臨床工学技士会に入るメリットも知ることができた。 ME・CEが臓器移植と密接に関わっているということを知った。臨床工学技士も患者に深く関わっているのだなと思った。 人工心臓業務が多くなっていることや、その業務内容が他の業務とは異なり、入院からよくなる過程までの一連で行われるということを知った。 英語も必要(勉強しておかなくてはならない)。患者の家族に、病院外で機器管理を教えることがあるということ。 心臓移植の時まではLVASを用いていること。心臓移植の歴史。 技士会について。

第8回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計

設問⑩	
臨床工学技士の業務について、この講演会で初めて知ったことは何ですか？	
大学 3年生	人工心臓に関して深く学べた。
	臨床工学技士の企業での役割を知ることができた。
	企業としての医療業界のグローバルイズムなど、臨床工学技士としての活躍が期待できる。また、気になっていた再生医療の実際の現場について知ることができた。
	退院する際のテストや講義・自宅の状況(アース・経路確)の確認など、様々な業務があると知りま
	移植医療にも、今は多く携わることが出来るということを知りました。自分の興味があることを見つけ、多くの知識を幅広く身につけたいと思いました。
	臨床工学技士であるまえに医療者であることを、福嶋先生のお話で感じた。
	臨床工学技士が、間接的であっても、移植医療分野で活躍する場があること。臨床工学技士の免許を持っていることで、企業で活かせる職種があるということ。
	心臓が動いていなくても、脳死さえ起こさなければ死なないことが分かりました。 ・認定士制度、キャリアアップを技士会が行う。「専門臨床工学技士」となる。 ・メディカルプラネックス・人工心臓管理技術認定士・シクロスポリン
大学 4年生	医療(病院)と工学をつなぐ“架け橋”として学ぶことが多かったが、CEが患者さんへの機器説明などの“架け橋”となることの重要性を知った。
	移植医療についての現状と今後、また、現場が求めているものについて知ることができた。
大学院 1年生	臨床工学技士として論文を書いて発表するという過程で、日本臨床工学技士会誌にてまとめられていて参考にして研究することができるということ。
その他	VAD装着患者さんへの綿密なケアについて。 臨床工学技士の活躍の場が企業や海外にもあり、家庭にまで及ぶことを知りました。

第8回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計

設問⑪	
その他、ご意見やご感想、今後聞きたいテーマなど。	
高校 3年生	人工移植や企業の魅力を知ることができ、狭い視野で考えていた将来の幅が広がりました。また、いろいろな場所でご活躍されている方のお話を聞くのは初めてだったので、貴重なお話を聞けて嬉しかったです。春から学び始めるのですが、立派な臨床工学士になれるよう頑張りたいと思います。
大学 1年生	今回は、企業と病院両方の話を聞くことができ、今後を考えるすばらしいきっかけになった。授業ではあがらないような話題ばかりで、非常に興味を持てた。
大学 2年生	臨床工学技士を目指すにあたって学生のうちにしておいた方が良いことは何か。 地方病院での業務などもききたい。 小児医療にとっても興味があるので、今後小児医療に関するテーマでお話を聞きたいです。 4名の先生の講演の中で、特に福嶋先生のご講演が印象的でした。患者やその家族への負担を軽減させるために取り組まれているところに感動しました。 臨床工学技士の資格を持った方だけでなく、医師(福嶋先生)の考えをお聞きできたので大変勉強になりました。今後、チーム医療について話を聞きたいと思いました。 死について考え直す機会を頂けたと思います。ありがとうございました。 補助人工心臓はバッテリー式で電池交換ということですが、電池交換の際止まっても大丈夫なの 企業での業務、海外への進展を知れて良かった。 これからの臨床工学技士の具体的な目標など。 移植について大変貴重なお話がきけた。
大学 3年生	今後、小児医療についてのお話をききたいです。 今回の講演会で、補助人工心臓管理業務に非常に興味を持ちました。 素晴らしい先生方の貴重なご講演をありがとうございました。これからの進路について、今回の講演を参考にしてしっかり考えていきたいと思っています。 どの講演もすごく興味深いものでした。 福嶋先生の脳死の話がとても考え深いものでした。今後ずっと問題になってくると思われるので、人工臓器の技術が早く進歩してほしい。 ドナー側も重視されている福嶋先生のお話は大変考えさせられるものだった。 病院に就職する際、むしろ大学院に進むのは不利だと聞いていたが、「修士をとっておけばよかった」、「今から取りに行きたい」と考えている人もいたということが分かって驚いた。 福嶋先生から移植医療についてや想いを聴かせて頂き、すばらしい経験になった。また、福嶋先生のお話からの古菌先生の「医療は哲学」という言葉に感銘を受けた。 臨床工学技士の知識を活かせる病院以外での場などがあれば聞きたい。 臨床工学技士として、自分の職域の幅を知ることが出来てよかった。 テルモ株式会社山本さんの「医用工学科は、医学部6年+工学部4年=10年を4年で行う」という言葉がとても印象に残りました。自身の強みとして、今後も励んでいこうと思いました。 移植については、授業でも実習でもそんなに濃い内容は勉強できていないため、すごく良い機会でした。今後、移植についても学びたいと思いました。 今回の講演では、移植医療に実際に携わっている方々から生々しい話(実際の現場で考えていること)等を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごせました。 死の定義が明確でないという話が恐ろしいと思った。臨床現場での役割も法律もまだまだ発展途上な事ばかりで、先輩方の努力によって進歩し続けている仕事だと分かった。
大学 4年生	臨床工学技士が関わり開発できる新たな分野とのつながり方。
大学院 1年生	人工肝臓などの最先端、展望、および未だ完成していない中で実際に行われている医療について。
その他	MEとしてのキャリア。臨床⇒企業に就職する場合の方法。 私も看護師として臨床で働いていますので、臨床工学技士の方々の幅広い活躍と熱い想いを聴かせて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。